

谷川俊太郎作「国境なき医師団に寄せる」毎日新聞夕刊 2019年12月18日刊を読む

傷ついて赤い血を流し
痛みに悲鳴を上げるのは
敵も味方もなかいカラダ
ココロは国家に属していても
カラダは自然に属している
肌の色が違っていても
母の言葉が違っていても
信ずる神が違っていても
カラダは同じホモサピエンス

いのちがけで
いのちを救う
カラダに宿る
生まれながらの愛

国境は傷
大地を切り裂く傷
ヒトを手当てし
世界を手当てし
明日を望む人々がいる

「人間はみな同じであるべきだが、そうっていないのが政治の現実。苦しむ人々の支援に言葉で参加したい」（談）

<コメント>

谷川先生のこの「詩」は、「詩」の同時代性、「詩」の可能性、「詩」の力、「ことばは力」を教えてください。

2019年12月20日(金)